



(株)内子龍王バイオマスエネルギーの説明を聞く山口さん(右から2番目)

内子高校小田分校の生徒が町内各地で仕事を体験する「インターンシップ」が11月15～17日の間にあり、インターン生2人が内子町役場にきました。税務課の家屋調査や総務課の交通安全設備の確認、内子保健センターの業務などを体験。いろいろな

将来を考えるインターンシップ 小田分校生が役場の仕事を体験

仕事を体験したくて役場を希望したという山口泉さん(同校2年)は、「デスクワークのイメージが強かったけれど、現場に出る仕事が多くて驚いた。新しいバイオマス発電所も見学できて、盛りだくさんの内容だった」と声を弾ませました。



(上)八幡浜市の川上小子供神楽の「大蛇退治」の一場面 (下)内子こども狂言くらぶは日頃の活動を紹介

「内子れきみんであそぼ」が11月13日、歴史民俗資料館で開かれました。子ども8人とその保護者が参加し、紙芝居やゲームなどで、一緒に楽しみながら町の歴史を学びました。参加者を迎えたのは、おはなし会「むしこまど」の皆さん。大瀬地区の「延

町の歴史と資料館をもっと身近に 「内子れきみんであそぼ」を初開催

命地蔵」などの民話を紙芝居で紹介し、地蔵が黒雲龍との相撲勝負に勝つて水をなくしたと話しました。ゲームでは指令書を手に館内を歩き、昔の炊飯器や冷蔵庫などを探索。少し身近になった資料館で、楽しそうな笑い声が響いていました。



学芸員の話聞きながら館内を回る子どもたち。探索ゲームも楽しんだ

南予の伝統を受け継ぐ子どもたち 稽古の成果を内子座で堂々と披露

南予地域で伝統芸能に励む子どもたちが一堂に会す「南予伝統芸能発表会」(えひめ南予きずな博実行委員会主催)が11月19日、内子座で開かれました。八幡浜市の「川上小子供神楽」や宇和島市の「立間鹿の子保存会」など7団体・約70人が出演。地域に伝わる舞などを、堂々と披露する姿に会場から温かい拍手が送られていました。歌舞伎俳優

の市川團十郎さんからのビデオメッセージもあり、「日々の稽古に励み、伝統を継承してもらえるところうれしい。頑張つて」と激励してもらいました。須佐之男命を演じた、まめつこ神楽部の吉田風沙さん(内子小5年)は「同じように頑張っている子どもたちを見て刺激をもらった。私も、もっとうまくなりたい」と真つすぐな目で語りました。

「南予プレミアムダイニング 内子座晩餐会」が10月29・30の両日、内子座で開かれました。企画・運営は内子町内の料理人などをはじめとした有志による実行委員会。まちの食材や文化の魅力を発信しようと多くの人が協力しています。食事は「Mario & Raffaella」(松山市)のシェフで五十崎出身の福岡淳さんが、地域で採れた新鮮な食材を

フレンチのコース料理として提供しました。ジャズ演奏が響く中、特設席には天然アユやジビエなどを使った料理が次々と運ばれ、来場者の五感を楽しませていました。松山市から参加した大西泰祐さんは「歴史ある内子座で上質な食事をする企画自体が素晴らしい感動した。料理の内容やスタッフの対応もよかった」と満足そうでした。



登壇した早見さん(右)とサブライズで登場したデブ猫ちゃん

『かなしきデブ猫ちゃん』への思い 作者の早見さんが内子町で講演

「第47回内子町読書活動研究集会」が11月8日、共生館で開かれ、町内の中学生など約480人が参加しました。読書感想文の表彰式などがあつたほか、内子町などを舞台にした童話『かなしきデブ猫ちゃん』の作者・早見和真さんが「は

じめての里帰り」と題して講演。「人々の考えに触れられるのが本の素晴らしさ。苦しいときに、物語の出版がある」と語りかけました。参加者からは「面白くて心に響いた」「本を読んですてきな人になりたいと思った」など感想が寄せられました。

100年の芝居小屋で食と文化に触れる ふた夜限りのプレミアムダイニング



希少な内子の食材を使った料理、おいしい地酒、特別な空間……。多くの人々の協力により、最高のおもてなしで来場者を迎えられた

「企業版ふるさと納税」で社会貢献 (株)ヒューネットが町に100万円寄付

(株)ヒューネット(兵頭完治代表取締役社長)から内子町へ企業版ふるさと納税100万円が寄付され、10月20日に町長室で贈呈式が行われました。同社・経営企画室長の兵頭慶太さん他4人が出席。小野植正久町長に目録を手渡し「子どもたち

のために使ってほしい」と思いを伝えました。企業版ふるさと納税は、企業が町の地域創生の取り組みを応援するために寄付できる制度です。いただいた寄付金は放課後の子どもの居場所づくりのために、児童館整備に活用する予定です。



小野植町長に100万円の目録を手渡した兵頭慶太さん(右)